

令和5年度
第4期朝霞市地域福祉活動計画
進行管理・評価シート(案)

委員会会議資料

社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況					
1 市民の暮らしを支える仕組みづくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	① 関係機関との連携			A	A	A			
		② 身近な福祉圏域の検討			B	B	B			
		③ CSWの配置			B	B	B			
	(2)相談支援体制の充実	① 特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援			B	A	A			
		② 身近な総合相談支援の充実			A	A	A			
		③ ボランティア活動の相談・コーディネート			A	A	A			
		④ 身近なボランティアの相談窓口の充実			A	A	A			
	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実	① 機関連携研修会			A	A	A			
		② 障害のある人の就労支援			A	A	A			
		③ 社会福祉法人の連絡会議			B	B	B			
	(4)権利擁護の推進	① 成年後見制度の理解・普及			A	A	A			
		② 虐待防止対策			A	A	A			
		③ あんしんサポートねっと			A	B	B			
	(5)生活困窮者等への支援の充実	① 生活再建のための相談支援			A	A	A			
		② 子どもの貧困対策に関わる団体への支援			B	A	A			
	(6)地域住民の交流の促進	① 地域住民の交流の機会の提供			B	A	A			
		② 地域住民の交流の活性化			B	A	A			
		③ 外国人への支援			A	A	A			
2 思いやりと支え合いの心づくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	① ボランティア・実習生の受け入れ			A	A	B			
		② 出前講座の実施			A	A	A			
		③ ボランティア講座の開催			A	B	A			
		④ 手話体験・要約筆記体験の実施			B	A	B			
		⑤ 地域福祉財源の確保			B	B	B			
		⑥ あいはあと事業			A	A	A			
	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成	① 教職員対象の研修会の実施			A	A	A			
		② 他機関と連携した福祉教育の実施			A	A	A			
	(9)地域での見守りの充実	① 住民参加による見守り事業の推進			B	A	A			
	(10)情報共有・発信の充実	① 分かりやすい福祉情報の提供			B	A	A			
		② メディア戦略の強化			A	B	B			
	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	① 福祉活動団体に対する活動支援			A	A	A			
		② 手話講習会の実施			A	A	B			
		③ 老人クラブに対する活動支援			B	A	A			
		④ ボランティア講座の開催(再掲)			A	B	A			
		⑤ 地域活動団体間の交流事業			B	B	B			

※ 部分は、重点的評価施策

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
3	安心して暮らしやすい地域づくり				R3	R4	R5	R6	R7
	(12)施設等の整備・充実	① 地域の人が集える拠点づくり			A	B	B		
		② 施設の点検・修繕			A	A	A		
	(13)防災対策の充実	① 災害ボランティア講座			B	A	B		
		② 災害ボランティアセンター設置訓練の実施			B	B	B		
		③ 防災訓練の実施			A	A	A		
		④ 小地域福祉活動における防災事業の相談支援			A	A	A		
	(14)防犯対策の充実	① 子どもへの防犯教室の実施			B	A	A		
		② 住民の防犯への意識の啓発			B	B	B		
	(15)外出・移動の支援	① 障害のある人や高齢者の外出支援			A	A	C		
		② 車いすの貸出し			A	B	B		
	(16)住まいの確保等への支援	① 生活困窮者等への支援			A	A	A		
	(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)	①							

※ 部分は、重点的評価施策

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①関係機関との連携				
	事業の概要	高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係者との会議や情報交換等を通じて連携を深めてきました。今後、さらに「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域住民や地域の様々な関係者・地域団体の参加と協働をもとに、地域の生活課題(ニーズ)について解決できる仕組みをつくっていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協理事会(2)・評議員会(2)・地域ケア会議出席(5)・生活支援コーディネーター会議(9)・第1層協議体会議(2) ・第2層協議体会議(2)・保護司会連絡会(1)・校長会議・教頭会議(1)・民協会長会(1) ・朝霞市地区民生委員児童委員協議会(6)・あんしんサポートねっと担当者四市ブロック会(1) ・特定相談支援事業所等連絡会(8)・特定相談支援事業所等連絡会事務局会議(10) ・進路連絡協議会(和光南特別支援学校等)(4)・福祉事業所合同説明会(1) ・南西部地域就労支援センター等情報交換会(4)・埼玉県障害者就労支援センター等連絡協議会(2) ・手話調整会議(2)・朝霞市障害者プラン推進委員会(4)・四市内福祉施設医療職ネットワーク会議(1) ・朝霞市子ども子育て会議(7)・児童館運営協議会(3)・要保護児童対策協議会(8) ・朝霞市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議(3)・地域包括支援センター運営協議会(2) ・地域密着型運営委員会(2) 関係機関との会議に出席し、情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各関係機関や各事業に関わる情報交換	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	82件	86件	93件		
進捗状況及び自己評価	・利用者のニーズ解決に向けて、総合的かつ効果的にサービスが提供できるよう、多様な関係者(保健・医療・福祉・教育等)と連携を図ることに努め、顔の見える関係づくりができた。 ・福祉団体・企業等と地域活動への参加や、現状を抱えている課題について意見交換を行うことで、お互いの役割や協力体制について理解が深まった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・福祉分野以外(医療・教育・雇用・企業等)の関係機関とのつながりを広げていく必要がある。 ・様々な地域の生活課題の解決に取り組む中で、慎重に取り扱わなければならないケース(貧困、虐待等)や個人情報の取り扱い等の課題が発生している。
今後の取り組み方針	・地域住民や地域の生活課題を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。 ・社協内部の部署間での連携・情報共有に努める。 ・個人情報の取り扱い(第三者に提供する際の本人同意の取り方等)について管理をしっかりと行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・地域の生活課題について考える。 ・地域にある福祉団体や関係機関等について情報収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②身近な福祉圏域の検討				
	事業の概要	第3期活動計画では、地域包括支援センターの圏域に合わせ地区活動を行ってきましたが、住民が身近に感じる福祉圏域について見直し・検討していく必要があることを認識しました。地域での福祉活動を、市民や関係団体と共に進めてきた従来のエリア(福祉圏域)を参考にしつつ、市内の他分野の圏域について情報を収集し、地域住民が身近に感じ、参加しやすい新たな福祉圏域を検討・研究していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和5年度は、地区の実情を把握するために、第3期地域福祉活動計画で作成した地域アセスメントシートの情報を基に、地区ごとに情報の更新作業を行った。あわせて、社協が設定した6地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業(2層協議体)における6圏域の一部の地区で担当職員同士の打ち合わせ等を行った。 また、住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)では、協力会員の活動可能範囲の確認や、ボランティアセンターでは、活動希望地域の確認等、実態の把握を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
身近な福祉圏域の検討	目標値	調査・研究			1回	2回
	実績値	調査・研究				
進捗状況 及び 自己評価	・地域アセスメントシートの情報を更新することにより職員の担当地区に対する理解が深まった。今期計画期間中は、社協が設定した6地区で福祉圏域の検討を行っていくが、社協の6地区と自治会・町内会、民生委員児童委員、生活支援体制整備事業のエリア分けが異なり、境界線を合わせる事が困難であることを改めて認識した。 ・一部の地区ではあるが、社協の地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業において協力体制についての話し合いができ、地域住民の交流事業の開催につながった。 ・あいはあと事業の協力会員・利用会員の地域ごとの登録分布表を作成したことで、登録者のバランスを把握することができ、次年度の新規協力会員向け講習会の実施等、事業の推進体制の参考とすることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた地域の福祉活動が再開され始めたが、その実情が変化しており、それらを把握する必要がある。 ・エリアの境界線が異なっている、社協が設定した6地区(児童館ごと)と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業の6圏域(地域包括支援センターごと)の全ての地区で連携するための方策を模索する必要がある。
今後の取り組み方針	・現場におもむき、地域福祉活動の実情等の情報の把握に努める。 ・行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業とエリアの境界線の違いがあっても連携できる方策について、地域包括支援センターと協議を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の生活課題や地域福祉活動等の情報を社協に提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置				
	事業の概要	地域において、ちょっとした困りごとから生活上の課題を抱える個人や世帯等、様々な地域課題が存在し、社協は地域住民と共に課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、困りごとがあっても自ら相談できないなど、福祉課題を抱えている人が増えてきています。そのような人たちが地域で孤立しないように、身近な生活課題を見つけ(気づく)、近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者、関係機関等との連絡調整をしながら(つなぐ)、地域で支え合う仕組みを一緒に考え(つくる)、地域の多様な生活課題の解決に向けて取り組んでいけるようCSWの配置に向けて検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・既にCSWを配置している他社協(和光市・戸田市)への視察を行った。 ・社協の地域福祉推進課にて、職員の研修会を行い、CSWの基本的な役割の理解や他社協の現状等を把握することで、CSWへの理解を深めた。 ・住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)での活動者、利用者の地域分布を集約する等、地域の状況把握を行った。また、日々の業務で関わる支援ケースを集約し、地域課題に関する情報の蓄積を行った。 ・地域ケア会議や生活支援コーディネーター会議等に出席し、行政と社協との連携や地域の生活課題等について情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
CSWの検討	目標値	調査・検討				設置
	実績値	調査・検討				
進捗状況 及び 自己評価	・社協内の各部署において、各々対象となる分野で、地域福祉団体との連携や個別の利用者への相談支援を行っており、事例の積み上げができています。あわせて、職員の経験やスキルも向上している。 ・他社協への視察を行い、実状や課題を確認したことで、CSWを朝霞市社協として設置する際の配置形態、業務内容等を検討する準備を進めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・縦割りの役割分担では解決できない地域の多様な生活課題を解決するためのCSWの配置を念頭に置いた社協内部配置や仕組みづくりを構築する必要がある。 ・CSWを担う人材の育成が必要である。
今後の取り組み方針	・CSWの業務や役割分担を明確化する等、配置に向けての調査・検討を行う。 ・CSW関連の研修に参加し、他市の状況等について把握する。 ・地域の生活課題等の情報収集に努め、市内の地域の生活課題の解決に取り組んでいる関係機関や地域福祉団体との情報交換等に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・身近な地域の困りごと気づき、その情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援				
	事業の概要	社協が運営する児童を対象とした施設において、児童がいつもと違う様子であれば専門機関へ相談するなど、他機関と連携を図っています。一人で悩まないように相談ができる場があることを広く周知し、多様な相談に対応できるように関係機関との連携をさらに深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・児童館にて、不登校児の見守り支援を行った。(4) ・児童館にて、不登校児の見守り支援の際、保護者・学校等と連絡調整を行った。また、家庭児童相談員の来館の調整を行った。 ・放課後児童クラブにて、児童の相談支援を行った。(46) ・放課後児童クラブにて、関係機関の会議や専門機関への情報提供等を行った。(37) ・県指定のアドバイザーに配慮を必要とする児童について相談し、アドバイスを受けた。(8) ・児童に携わる関係機関が集まる会議やヤングケアラー支援者研修等に出席した。(3)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	45件	45件	45件	50件	50件
	実績値	43件	48件	98件		
進捗状況 及び 自己評価	・社協が運営する児童を対象とした施設(児童館・放課後児童クラブ)にて、家庭環境が複雑な児童や障害児の他に気になる児童等に対して、保護者・学校・行政等と連携を図りながら相談支援を行うことで、児童とその保護者が安心して施設を利用できる環境を整えることができた。また、日頃より保護者と関係を築くことで、相談件数の増加につながった。 ・専門的な支援が必要な場合は、関係機関につなげた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	専門的な支援、また児童の権利擁護への配慮等が必要なケースもあり、施設だけでは解決できない場合がある。
今後の取り組み方針	・児童が安全・安心に暮らせるよう、日頃から保護者・学校・行政等との連携を図る。また、専門的な支援が必要な場合は関係機関につなげていく。 ・会議等に出席し、関係機関と顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

困りごとがあれば利用している施設や市・社協に設置されている窓口に相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②身近な総合相談支援の充実				
	事業の概要	平成29(2017)年度から総合相談の窓口を設置し、住民の困りごとを幅広く受ける体制を整えました。日常生活の中で住民が感じる不安や困りごとに対し、誰もが気軽に利用できる総合相談窓口を目標に、様々なニーズに応えるため児童・高齢・障害等の各専門機関と連携し、総合相談の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・福祉に関するあらゆる相談(高齢者関係、障害者関係、就労、生活困窮、権利擁護等)に対して、困りごとに耳を傾け、情報提供等を行い、必要に応じて、関係機関(市役所、保健所、地域包括支援センター、病院等)につなげた。 ・食料がないという生活困窮者に対し、食材支援を行った。 ・広報紙「社協あさか」やSNSで、総合相談窓口の周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合相談件数	目標値	20件	20件	25件	25件	30件
	実績値	30件	26件	47件		
進捗状況 及び 自己評価	・それぞれの困りごとに耳を傾け、社協だけで解決できない場合は、関係機関につなぐ等、課題解決に向けた支援を行うことができた。 ・関係機関との連携等により、昨年度より多くの住民からの相談を受け付けた。 ・広報紙「社協あさか」やSNS等で総合相談窓口の周知に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	誰もが気軽に利用できる、社協の総合相談窓口の存在を市民や関係機関により広く周知する必要がある。
今後の取り組み方針	・広報紙「社協あさか」やSNS、ホームページ等を活用して、総合相談窓口の周知・啓発を行う。 ・日常生活の中で住民が感じる不安や困りごと等を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている人がいたら、社協の総合相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③ボランティア活動の相談・コーディネート				
	事業の概要	ボランティアコーディネーターは、市内の福祉施設や活動団体、関係団体等のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアをやりたい人とボランティアに来てほしい人をコーディネートします。また、ボランティア募集やボランティア団体の活動状況等をボランティアニュース・広報紙「社協あさか」・SNS等で発信し、ボランティア情報を必要としている人へ届けるとともに、ボランティアに参加する人が増えるように努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・ボランティア活動をしたいという市民やボランティアに来てほしいという施設等からの相談を受け、必要な情報提供やコーディネートを行った。(延べ174件) ・誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのための事業(彩の国ボランティア体験プログラム)のメニュー作りを行い、参加者と受け入れ先の活動調整を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア相談件数	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	106件	122件	174件		
進捗状況 及び 自己評価	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、市内福祉施設等からのボランティア依頼が再開し、コーディネートを行った結果、相談件数が増加した。 ・ボランティア登録をした市民とのつながりが途切れないよう、ボランティアニュースやボランティア情報のメール配信を行い、継続的に関わることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムをきっかけにボランティア活動を継続する参加者がおり、活動のきっかけ作りにつながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・社協がボランティアセンターを運営していることを知らない市民がいる。 ・ボランティア活動希望者へ紹介する活動先の拡充する。
今後の取り組み方針	・地域の福祉活動が活性化するように、またボランティア登録者等とつながりをたやさないよう、情報発信を継続して行う。 ・ボランティア活動のコーディネートを幅広く行うため、市内で活動している施設・団体とつながりを持ち、活動状況を把握する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・ボランティア活動に興味があったら、ボランティアセンターに連絡をする。 ・ボランティアを必要としている人や団体はボランティアセンターに相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④身近なボランティアの相談窓口の充実				
	事業の概要	ボランティアセンターは、「地域に開かれた社協のフロント(窓口)」としての機能を有するため、ボランティアに関する相談や情報揭示ができるスペースを確保し、ボランティアセンター窓口の機能充実を図ります。また、ボランティアセンターまで来所することが難しい人へ向けて、市内の公共施設、スーパーやドラッグストア等に出張ボランティアセンターの開設を働きかけ、ボランティア相談スペースの確保を図ることで相談窓口の拡充を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市主催の「地域デビューセミナー」にて朝霞市ボランティアセンターのブースを設け、ボランティア相談を行った。(1) ・市民活動支援ステーションとの連携により、ステーションにてボランティア保険の受付を出張窓口を開設して行った。(4)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出張ボランティア相談実施回数	目標値	2件	2件	2件	3件	3件
	実績値	6件	7件	5件		
進捗状況及び自己評価	・市主催のイベント等に参加し、相談窓口を開設することで、ボランティア相談を受けたり、ボランティアセンターの周知を行うことができた。 ・昨年度「今後も継続してほしい。」という市民の声を受け、ボランティア保険の受付を出張窓口にて行い、利用者の申し込みを受け付けた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・交通の利便性の問題で、ボランティアセンターまで来所が困難な人がある。 ・出張窓口を開設したが、定期的な開設ではないため、認知されにくい。
今後の取り組み方針	・市民活動支援ステーションと連携し、出張窓口を開設する。 ・開設にあたっては、ボランティアニュースやメール配信等にて、日時、場所等の周知を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民が利用しやすいボランティア相談窓口の場所について情報提供する。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①機関連携研修会				
	事業の概要	保険医療と介護及び障害者支援の専門機関同士は、カンファレンス等を通じて個別に連携が図られていますが、地域住民の複雑化・複合化した課題に対応するためには制度によらない支援体制の一層の充実が求められています。このことから、保健医療、介護、障害者支援及びその他の社会福祉の推進に係る機関等の参加により、それぞれの活動内容や機能を十分に理解し、連携の質の向上を図ることを目的とした研修会を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	はあとぴあ障害者相談支援センターとはあとぴあ障害者就労支援センターの合同で研修会を開催した。 ・「高次脳機能障害の理解」を開催した。 ・「障害のある方に「親なきあと」に向けて知ってほしいこと」を開催した。 ・「障害児のライフプラン」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
機関連携研修会の実施	目標値	調査・検討		1回	1回	1回
	実績値	調査・検討		1回		
進捗状況 及び 自己評価	・はあとぴあ障害者相談支援センターとはあとぴあ障害者就労支援センターで研修会を合同企画することで、より多くの関係機関が参加し、連携及び資質向上が図れる関係づくりができた。 ・昨年度の研修会参加者からのアンケート結果を基に、関心の高い内容を盛り込んだことで、参加者が多く、日々の支援に活かせるような研修会を開催することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・事業所、事業種別によって、参加しやすい日時、研修内容等が異なるため、多くの関係機関が参加できる研修会をどのように企画していくか工夫が必要である。 ・関係機関がより関心をもって参加してみようと思えるテーマを検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・研修会の開催日時や場所・テーマ等のニーズ把握に努め、関係機関の共通課題や関心の高い内容を研修内容に反映していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

利用者へ提供できる支援体制を整えるために、関係機関がお互いの業務内容について情報を共有する。
--

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②障害のある人の就労支援				
	事業の概要	障害のある人の働きたいという気持ちを尊重し、相談や現場同行を通じて、その人の能力が発揮できる就労につながるよう支援を行います。一方、障害のある人を雇用する事業所については、一緒に働くにあたっての相談や助言を行い、障害がある人の働きやすい環境を整える支援が必要です。そのため、障害者就労支援センターでは、埼玉県障害者雇用サポートセンター、ハローワークと連携して障害のある人をサポートすることにより、地域で生活し、就労を通じて社会参加ができるよう、地域住民や事業所等に障害についての理解を深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市内企業からの雇用相談(213件) ・SNS、広報への関連記事の掲載(56件) ・関係機関へ障害者就労支援センターのサービス説明を行った(1件)					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発・働きかけ	目標値	180件	180件	185件	185件	190件
	実績値	193件	277件	270件		
進捗状況 及び 自己評価	・障害のある人がより安定した障害者雇用につながるよう他機関と連携を図りながら、雇用したいという企業を紹介する支援を行った。その際、働きやすい環境を整えられるよう企業と調整を行い、障害への理解を深めることにつながった。 ・X(旧ツイッター)・広報紙の活用を意識し、市内の企業・市民に広く就労支援センターや障害者雇用の啓発の働きかけを行うことで、障害のある人が「働く」ことについて理解を深めるきっかけ作りができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	企業や市民に向けて、障害者雇用や一般就労についての普及啓発が必要である。
今後の取り組み方針	X(旧ツイッター)や広報紙を活用して、障害者雇用についての情報を発信していくとともに、市内企業や就労支援施設に対して、障害者雇用や一般就労に関する情報提供を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分に合った福祉サービスを選べるように情報を収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③社会福祉法人の連絡会議				
	事業の概要	長年、市内の社会福祉法人等の障害者福祉施設との横のつながりを強めていくために、「はあとねっと会議」や四市福祉施設看護師の「医療職ネットワーク会議」等を開催しています。今後、さらに市内の社会福祉法人に働きかけ、お互いに顔が見える関係を築き、協働・連携しながら積極的な地域福祉活動の取り組みを推進するため「社会福祉法人の連絡会議」を立ち上げ、地域福祉活動を支えるための仕組みづくりを進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・埼玉県社協が主催する会議にて、社会福祉法人の連絡会議に関連する情報収集を行った。 ・他市での社会福祉法人の連携についての情報収集を行った。 ・地域住民が抱える困難な福祉課題の解決のために、県内の社会福祉法人が協働し社会貢献活動に取り組む「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会」の会員として、事業（衣類バンク、食材支援等）の周知啓発に努めた。 ・障害者福祉分野での特定相談支援事業所等連絡会の事務局を務めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
社会福祉法人の連絡会議	目標値	調査・検討		検討・準備	1回	1回
	実績値	調査・検討		検討・準備		
進捗状況 及び 自己評価	・他市での社会福祉法人の連携について情報収集を行い、法人によって連携する分野を整理したほうが効果的な連携が図れることがわかった。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会の会員としての活動は行ったが、会員である市内社会福祉法人との連携にまでは至らなかった。 ・特定相談支援事業所等連絡会の開催を通して、関係機関との連携を強めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市内の社会福祉法人の活動について情報収集を行うとともに、社会福祉法人の連絡会議の実施形態について検討していく必要がある。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会会員の市内社会福祉法人との連携が図れていない。
今後の取り組み方針	連携に向けて、協議するテーマを絞ったり、テーマに関心のある社会福祉法人をピックアップして声掛けする等、段階を踏みながら準備を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社会福祉法人としての活動を地域に発信していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の理解・普及				
	事業の概要	日々の暮らしに不安を抱える、認知症高齢者や障害のある人等が、住み慣れた地域で安心して生活をしていく一助となる成年後見制度については、市民の関心が高まりつつあるものの、広く普及するまでには至っていません。そのため、制度の理解・普及を目指し、市民を対象とした講座を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民向け講座「障害のある方に『親なきあと』にむけて知ってほしいこと」を開催し、において、成年後見制度についての周知・啓発を行った。(1) ・行政書士による成年後見制度等の無料相談会を実施した。(1) ・SNSで成年後見制度に関する情報発信を行った。 ・他市(新座市・志木市・戸田市)での成年後見制度への対応について、職員による視察を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見制度の講座開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	2回	3回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	SNSでの情報発信や市民を対象にした講座、無料相談会を開催することで、成年後見制度の周知・啓発を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	成年後見制度の理解・普及のために、多くの関係機関・市民に制度を知ってもらう必要がある。
今後の取り組み方針	・成年後見制度についての知識が深められるよう、SNSや広報紙での情報発信や研修会を企画していく。 ・社協職員の意識の醸成を図るため、研修会等に参加し、幅広い知識を得られるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

成年後見制度を知るため、市や社協が開催する講座に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②虐待防止対策				
	事業の概要	社協が管理運営する施設に虐待防止のポスター等を掲示し、虐待防止の理解、啓発を図ります。また、施設利用者の様子を確認し、家族とコミュニケーションをとりながら状況確認を行い、必要に応じて関係機関に報告し、虐待の早期発見・抑制に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	・虐待防止に係る掲示物を掲示し、市民への啓発を行った。(21) ・社協が主催する講座等で、該当しそうな案件があれば社協に相談してほしい等、虐待防止について周知を行った。(8) ・虐待防止に関する研修を受講した。(7) ・障害者施設において、虐待防止委員会を設置し、開催した。(2)											
指標名	年度	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
市民等への啓発及び 職員の研修	目標値	啓発 研修	21件 7件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件	
	実績値	啓発 研修	30件 15件	啓発 研修	26件 9件	啓発 研修	29件 9件	啓発 研修		啓発 研修		
進捗状況 及び 自己評価	・虐待防止に関する研修を内部で開催したり、外部での研修に参加することで、社協職員の虐待防止についての理解が深まった。 ・地域住民等からの相談に対し関係機関を紹介したり、場合によっては関係機関に報告する等、虐待の早期発見・抑制につながるよう努めた。											
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない										

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者・障害者・児童等への虐待防止について、関係機関だけでなく地域全体が興味を持ち、理解をより深める必要がある。
今後の取り組み方針	・市民の目につきやすい場所にポスター掲示を行ったり、社協が主催する講座等で説明を行うなど周知・啓発に努める。 ・虐待防止への理解を深めるため、社協職員は積極的に研修に参加する。また、虐待の早期発見・抑制のため、関係機関との連携に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待が疑われる場面に遭遇したら、関係機関に通報・相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③あんしんサポートねっと				
	事業の概要	住み慣れた地域の中で、高齢者や障害のある人が、安心してその人らしく生活できるよう、多様な地域資源を活用しながら専門員による相談援助や生活支援員による定期訪問等の援助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・判断能力の不十分な高齢者や知的・精神障害のある方が、安心して生活が送れるよう、福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)の新規契約に向けた支援や、福祉サービスの利用援助、日常生活上の手続き援助、日常的金銭管理、書類等の預りサービスの援助を行った。 ・令和5年度契約者数:12人(内新規3人) ・令和4年度契約者のうち、2人契約終了(死去、成年後見制度への利用移行)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉サービス利用援助事業利用人数	目標値	11人	12人	13人	14人	15人
	実績値	12人	11人	12人		
進捗状況及び自己評価	生活支援員養成研修で登録していた方も含めて3名に生活支援員の委嘱を行った。あわせて、ケース会議等を通じて、行政・福祉・医療等の関係機関と積極的に連携を行うことで、利用者や利用希望者のニーズに応えるための体制整備を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用希望者からの問い合わせ(特に金銭管理の支援を希望する方)が増えている。移動手段や通帳預かりの面から、支援の調整が困難な場合がある。
今後の取り組み方針	・関係機関と連携を深めたり、SNSや広報紙での情報発信を行う等、新規の生活支援員の確保等の体制整備を図る。 ・SNSや広報紙での情報発信等、あんしんサポートねっと事業による支援が必要な方に情報が届くよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に金銭管理や事務手続き等に不安のある人がいたら、あんしんサポートねっとを紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	①生活再建のための相談支援				
	事業の概要	近年、非正規雇用や新型コロナウイルス感染症等を背景に、生活再建に関する相談が増加しています。当座の生活資金の相談から生活の安定が図られるまでに、その他の複合的な課題を抱えている人も多いため、市との連携強化を図り、様々な社会資源やその他の生活再建に必要な他制度を活用して、相談者の課題解決に向けて支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活困窮に関する相談支援を行った。(280件) ・生活福祉資金特例貸付(令和4年9月30日受付終了)の借受人の償還猶予申請に伴い、埼玉県社会福祉協議会と連携して生活状況の聞き取りや面談を行った。 ・食材の確保が困難な相談者に対し食料支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	100件	100件	100件	100件	100件
	実績値	3182件	743件	280件		
進捗状況及び自己評価	・特例貸付で知名度が上がった社協の相談窓口にも、特例貸付受付終了後も生活困窮に関する相談が増えた。生活困窮に関する相談があった際、現在の生活状況をよく聞き取り、課題解決に向けて相談者と一緒に考え、生活福祉資金の案内や適切な資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報提供を通して、生活再建に向けて支援することができた。 ・相談者の状況によっては自宅に訪問し、食材や日用品の無償提供を行い、急場をしのげる支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年々相談内容が複雑化しており、家計管理に問題のあるケースや慢性的な生活困窮だと思われるケース等が増えてきている。
今後の取り組み方針	相談者に適切な情報提供ができるよう、日々更新・変更される社会資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報を収集し、課題解決に向けて関係機関との連携強化を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に生活困窮者等の情報が寄せられた場合、市や社協等と協力して支援を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②子どもの貧困対策に関わる団体への支援				
	事業の概要	子どもの貧困に関する問題は、単に金銭的な援助で解決するものではなく、居場所づくりや様々な学びの支援も行う必要があり、市内では子ども食堂や学習支援団体等がその活動を行っています。社協ではボランティアの募集や助成金情報等を提供する他、市民へ団体の活動を周知するなどの支援を行っています。今後も、団体等の支援を行うとともに、地域の中で身近な人たちが子どもの貧困について学びを深め、関心を持つことで、温かい食事や学習をサポートしてくれる地域の助け合いをします。今後も活動につなげていくことができるよう、啓発活動等に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・企業や個人から寄贈・寄付の相談を受け、市内の子ども食堂ネットワークやフードパントリーにつなげ、活用してもらった。(2件) ・子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体にボランティア希望者のコーディネートを行った。(3件) ・子どもの貧困に関わる団体への支援として、本会X(旧ツイッター)、ホームページ、朝霞市総合福祉センター1階情報コーナーにて随時助成金等の情報発信を行った。(1件) ・ひとり親家庭等支援事業利用者に対して、子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体の情報提供等を行った。(3件) ・各団体から助成金等の申請希望があった場合、申請支援を行った。(1件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子ども対象団体への支援	目標値	5回	5回	10回	10回	10回
	実績値	4回	9回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	寄付・寄贈やボランティアのコーディネート、助成金の情報提供、ボランティア募集の周知等、子どもの貧困に関わる団体への支援を通じて、団体と情報交換を行い、今後の協力体制について協議することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子どもの貧困対策に関わる団体がどのような支援を必要としているのか、情報収集する必要がある。
今後の取り組み方針	・子どもの貧困対策に関わる団体との情報交換等に努める。 ・食材寄付や助成金の情報提供を行う等、団体の支援を継続して行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの貧困に対する活動団体を理解し、様々な形で応援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①地域住民の交流の機会の提供				
	事業の概要	福祉の関心を広げる仕掛けとしてのボランティア活動や地域デビュー講座、市内を5つの地区に分けての社協主催の地域懇談会などを積極的に開催してきたことで、幅広い世代の住民の参加・参画により住民同士の身近な交流の機会を作ってきました。このような地域づくりの中で、交流を深めながら温かく見守り、時にはおせっかいを受け入れるような、顔の見える地域づくりが大切です。これからも、このような地域を目指し、住民が主体となってより身近な地域で支え合う仕組みができるように、社協が実施する事業などを通じて、人材育成や地域づくりにつながるような交流できる機会を提供していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・切り絵体験教室(10)・ノルディック・ウォーク教室(28)・健康太極拳教室(36) ・合同健康相談会(溝沼老人福祉センター・地域包括支援センター・一般介護予防事業の共催) ・児童館乳幼児親子交流事業(6)・児童館夏祭り(6)・児童館クリスマス会(6)・児童館春祭り(5) ・HIZAORI春祭り(ひざおり児童館・周辺の町内会の共催)・朝霞市児童館in彩夏祭(6館合同) ・交流事業(溝沼老人福祉センター・みぞぬま児童館、浜崎老人福祉センター・はまさき児童館、はまさき児童館・浜崎老人福祉センター・はあとびあ福祉作業所、みぞぬま児童館・第2層協議体、ねぎしだい児童館・老人クラブ、はあとびあ福祉作業所・向陽園)(6) ・あいとはあと事業協力会員ミーティング・サロン交流会・あんしんサポートねっと事業生活支援員交流会 ・ボランティア講座・朝霞市ふれあいスポーツ大会・はあとびあふれあい祭り・ふれあいマルシェ					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域住民の交流事業	目標値	75回	80回	85回	90回	100回
	実績値	64回	81回	113回		
進捗状況 及び 自己評価	社協が運営する施設等において、地域住民が主体となって支え合う仕組みができるよう、また、地域づくりにつながるような交流の機会を提供することで、幅広い世代の地域住民の交流や、地域住民の自主的な活動につなげることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・多くの事業が企画され、地域住民の交流の機会が増えてきているため、地域住民が情報を得やすいように、より広く周知する必要がある。 ・地域福祉団体や自治会・町内会等、社協との顔の見える関係が途切れてしまわない関係づくりが必要である。
今後の取り組み方針	・SNSや広報紙等を活用し、また関係機関とのつながりを活かして、事業等の周知に努める。 ・地域福祉団体や自治会・町内会に訪問する等、顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域交流の機会があれば参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②地域住民の交流の活性化				
	事業の概要	地域では住民主体による高齢者や子育て支援などの身近なサロン活動が増えており、そうした活動や、関係づくりを支援することで、地域福祉を支える活動の活性化を図りました。こうした住民主体の活動により、身近な地域で支え合う意識が向上し、安心した暮らしにつながります。このような地域での助け合い、支え合いの活動をより広めるため、地域づくりや人づくりにつながる新たな場の立ち上げや、既存の活動支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・サロン・会食団体の相談支援を行った。(電話・訪問含む)(156件) ・赤い羽根共同募金を財源として、団体の運営費や事業費を支援する「地域福祉活動助成金(地域福祉活動団体を除く)」を実施した。(運営費交付団体数:21団体、事業費申請団体:2団体、開設費助成金:1団体)(サロン・会食団体) ・地域歳末たすけあい募金を財源として、「歳末援護金交付事業(地域福祉活動団体を除く)」を実施し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している住民主体団体へ活動支援を行った。(交付団体数:10団体)(サロン・会食団体) ・サロン交流会を開催した。(2回)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民主体の活動への相談・支援	目標値	120件	120件	125件	125件	130件
	実績値	113件	138件	192件		
進捗状況及び自己評価	・助成金の交付等、団体の運営面を支援した他、サロン交流会において、地域の活動者同士が話し合う場を設け、意見交換、情報交換をすることで、同じ思いを持つ人同士の横のつながりを作ることができ、活動を続けるモチベーションにつながった。 ・新規サロンの立ち上げに関する相談を受け付け、開設費助成金を交付し、新規団体立ち上げの支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	スタッフ・利用者の高齢化により、活動継続が課題となっているサロン・団体等への支援が必要である。
今後の取り組み方針	・団体への助成金等の支援を継続するとともに、団体との顔の見える関係作りに努め、必要な相談支援を行っていく。 ・各団体が情報共有できる場所(サロン交流会等)を設け、団体同士がつながりを持てるよう支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自治会・町内会や地域の活動団体に加入し、地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③外国人への支援				
	事業の概要	外国人が地域で暮らす中で、言葉や制度、心の壁等、様々な課題があると言われていますが、その課題を解決するには、地域で暮らしている外国人住民への関りや、多文化を理解する必要があります。外国人が安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくために、外国人を支援する団体等との連携を図るとともに、知る・学ぶ・交流する機会を設けていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・障害のある外国人が就労している会社に訪問し、本人、会社担当者と面談して困りごと等の確認を行った。(18件) ・外国人からの相談(主に生活困窮、特例貸付の償還について)において、分かりやすい日本語や、多国語の資料、翻訳機等を活用しながら支援を行った。また、必要に応じて、関係機関へつなぐ等の支援を行った。(21件) ・放課後児童クラブにおいて、利用している児童の中には外国人児童もあり、安心して過ごせるよう相談等の支援を行った。(6件) ・ひとり親家庭等食材支援事業の周知において、チラシの英訳版を作成した。また、外国人支援団体に周知の依頼を行った。その際、外国人のいる世帯から申し込みがあり、食材支援を行った。(4件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
支援件数	目標値	40件	40件	45件	45件	50件
	実績値	162件	70件	49件		
進捗状況 及び 自己評価	・障害のある外国人への就労支援を行うことで、安定した就労につなげることができた。 ・特例貸付の受付が終了し、外国人からの相談件数は減ったが、コミュニケーション方法を工夫したり、関係機関と連携することで外国人の生活課題への支援ができた。 ・施設との連絡方法や書類の書き方を説明する等の支援を行った結果、安心して施設を利用してもらうことにつながった。 ・食材支援を通じて、外国人支援団体と連携するきっかけとなった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人の中には、日本語の理解に乏しい方もいたり、国籍・文化によって価値観が違い、困りごとが多様化しているため、就労を継続していくのが困難であったり、施設利用がスムーズにいかなかったりする方がいる。研修や支援の事例を通して、外国人支援の現状を知り、多様な支援について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、コミュニケーション方法等を工夫しながら、就労への支援や生活困窮についての相談支援を行う。 ・多方面からの支援が行えるよう、関係機関・団体との連携を深める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている外国人がいる場合は、社協を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①ボランティア・実習生の受け入れ				
	事業の概要	誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては、子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する施設で、ボランティアの受け入れを行った。(老人福祉センター1件、児童館44件、放課後児童クラブ251件、障害者支援施設13件、彩の国ボランティア体験プログラム20件、地域福祉推進係1件、福祉教育サポーター44件、合計374件) ・社協の運営する施設で、実習生の受け入れを行った。(社会福祉士実習3件、保育実習14件、介護等体験3件、手話通訳実習1件、合計21件) ・中学生(職業体験)、高校生(授業プログラム)、大学生(施設体験)の受け入れを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア・実習生受け入れ人数	目標値	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件
	実績値	ボランティア 316件 実習生 20件	ボランティア 335件 実習生 25件	ボランティア 374件 実習生 21件	ボランティア 実習生	ボランティア 実習生
進捗状況及び自己評価	・社会福祉士実習の受け入れでは、各部署の実習指導者間で実習方法の検討や振り返りを行い、実習生の地域福祉への理解と関心を深めることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの参加者の中から、ボランティア活動につながった人がおり、活動のきっかけ作りを提供することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	ボランティアの受け付けについて、社協全体で福祉の担い手を育てるという意識を持って、参加の企画や募集の広報等、より参加しやすい体制整備を行う必要がある。
今後の取り組み方針	ボランティアの受入れについて、彩の国ボランティア体験プログラムを利用する等、活動のきっかけ作りに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉施設、ボランティア団体等のボランティア活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②出前講座の実施				
	事業の概要	社協では出前講座の実施とともに、新たな講座の検討やメニューの見直しを図ってきました。今後は、さらに地域の様々な団体、企業等に対し、身近な地域でいつでも福祉の活動を「知る」「体験する」ことができるような講座の実施、メニューの充実積極的な情報発信を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・身近な福祉情報を交えた講座を社協職員等が講師となり、出前講座として実施した。 (「車いす体験教室」「福祉の仕事について」「障害の理解について」「地域における発達障害者支援について」「高齢者の栄養について」「気功講座」「切り絵講座」「輪投げ体験」「施設見学」等) ・企業等への会員会費募集や卓上募金のお礼状送付の際に「企業×福祉」チラシ(出前講座情報含む)を同封し、出前講座のPRを実施した。(1) ・別の相談で来所していた企業へ出前講座のチラシを配布し、直接説明を行った。(1) ・市生涯学習ガイドブックに、出前講座のメニューの一部を掲載した。(1) ・出前講座実施の際に、他団体から企画に困っている等聞いていることがあれば、社協の出前講座を紹介してほしいことを伝えた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
団体・企業等への働きかけ	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	6件	5件	4件		
進捗状況 及び 自己評価	朝霞社協まるわかり帳やホームページ等に、出前講座の情報を掲載し周知した他、サロン交流会においては、今まで実施した内容を紹介したことで、実施に向けた相談につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	申請する団体が固定化してきており、地域の様々な団体・企業への働きかけが必要である。
今後の取り組み方針	地域での行事やイベント、地域福祉団体の定例会等でのチラシや冊子の配布に加え、SNS等も使用して、社協の取り組みとともに出前講座の周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

協働事項	社協の出前講座に参加し、得た知識や経験を地域に伝えていく。
------	-------------------------------

4 推進委員会の意見(評価)

推進委員会の意見(評価)	
--------------	--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ボランティア講座の開催				
	事業の概要	講座内容の充実を図るため、地域に出向きサロン活動者やボランティア等から、現在のボランティアニーズの聞き取りを行っています。引き続き、ボランティアニュースや社協ホームページ、ツイッター等のSNSを用いて講座情報を広く発信していきます。また、地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、受講後も地域福祉を進める担い手となるよう継続的に参加者の支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはいと事業新規協力会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいはいと事業新規協力会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④手話体験・要約筆記体験の実施				
	事業の概要	聴覚障害者に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・手話体験の実施(1) ・パソコン要約筆記体験の実施(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手話体験・要約筆記体験会開催回数	目標値	2回	2回	3回	3回	3回
	実績値	2回	2回	2回		
進捗状況及び自己評価	・手話体験では、小学生以上の年齢層を募集することで、幅広い世代への手話の普及につながった。 ・要約筆記体験では、参加者募集を行ったものの申し込みがなかったため、実施までには至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・地域住民に興味・関心をもってもらえるような企画・立案を行う必要がある。 ・体験の参加者が増えるよう、体験の広報に努める必要がある。
今後の取り組み方針	地域住民が参加しやすい事業になるよう、実施回数を検討する等、継続的に事業を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業に参加し、手話や要約筆記への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤地域福祉財源の確保				
	事業の概要	共同募金、寄付、社協会費等が有効に地域の福祉活動に活用されるよう、地域住民、企業、社会福祉法人等の参加度を高め、また、その資金に協力する人、助成を受けて活動する人、誰もが地域福祉の支え手として参画できるように、分かりやすい周知の在り方を検討し、透明性の高い運動を展開します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・募金実績額:赤い羽根共同募金(6,260,532円)、地域歳末助け合い募金(4,078,464円) ・自治会・町内会を通して市民に対して募金への協力依頼を行った。 ・ほんちよう児童館と連携し、学生ボランティア11名と街頭募金を行った。 ・一般介護予防事業参加者、老人クラブ連合会等に、プリペイドカード等の募金協力を依頼した。 ・広報紙「社協あさか」に募金の使い道を掲載したり、市の広報紙・SNS・メール配信等にて募金運動の実施について周知した。 ・広報紙にて「るくるん募金箱」の設置先の紹介を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
共同募金(赤い羽根・歳末)の募金実績額	目標値	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円
	実績値	10,742,898円	10,824,414円	10,338,996円		
進捗状況及び自己評価	・共同募金について、社協の広報紙やSNSだけでなく、市の広報紙やSNSを活用することで、幅広い世代の地域住民に周知啓発することができた。 ・児童館の学生ボランティアに、共同募金について説明したことで、より理解を深めてもらい、思いやりの心を育む活動につながった。 ・共同募金・寄付(るくるん募金箱)等について周知啓発を行うことで、社協をPRすることにもつながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらい、協力してもらえよう周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらえよう、広報紙やSNSを通じて周知・啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の募金活動は身近な地域の福祉に役立つことを知り、活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」				
	事業の概要	これまで住民参加型在宅福祉サービスとして、「ふれあいサービス事業」と「ホームクリーニング事業」を実施してきましたが、この2つを統合し、新たに「あいはあと事業」を開始します。この事業は地域の支え合いの仕組みをつくることを目的としており、日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたい」、「空いているときに人のお手伝いをしたい」、そんな想いをつなげる地域の支え合い活動を展開していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業のパンフレットを配布した。(利用会員、新規協力会員向け講習会受講者、民生委員、ボランティア活動団体、市役所職員、ボランティア講座受講者、サロン会食団体、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等) ・広報紙「社協あさか」やSNS等で、あいはあと事業の概要記事を掲載し、周知啓発を行った。 ・身近に困っている人がいる場合は、あいはあと事業のパンフレットや紹介をしてほしいことを、職員より利用会員、協力会員に伝え、情報発信を依頼した。 ・住民の紹介による利用件数(121件うち12件) ・あいはあと事業利用者(高齢者)宅訪問時は、担当ケアマネジャーに同行依頼し、関係機関との顔の見える関係づくりを行った。 ・協力会員ミーティングにて活動紹介を行い、地域の支え合い活動であることを共有し、協力会員の活動意欲の維持・向上を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民の紹介による利用件数	目標値	10件	10件	10件	15件	15件
	実績値	14件	17件	12件		
進捗状況及び自己評価	利用会員・協力会員による紹介で利用につながるケースが毎年度あり、広報紙等の広報媒体からの情報だけでなく、人と人とのつながりの中から支援につながっていく地域の支え合い活動を展開することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の支え合い活動であるあいはあと事業の周知・啓発のため、広報紙・SNSだけでなく、地域住民が気軽に情報を手に入れられる場所・手段について検討が必要である。
今後の取り組み方針	・地域住民への情報発信者となってもらえるよう利用会員・協力会員に事業の地域の支え合い活動という趣旨説明を伝えていく。 ・引き続き、広報紙やSNSにて事業の周知を行いながら、新しい手法も検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協で得た情報、知識を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①教職員対象の研修会の実施				
	事業の概要	福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのために、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を継続的に実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞市、和光市、志木市、新座市社協のボランティアセンター共催で「朝霞地区四市福祉教育研修会」を開催した。四市の担当職員が打ち合わせを重ね、内容や実施方法の検討を行い、実施した。 参加者：四市合計：45人（朝霞市：8人） ・市内小・中・高等学校に案内と福祉教育のメニューを送付し、小・中学校の校長会・教頭会議に出席し、口頭でも周知を行った。 ・次年度に向けて、教職員の参加が増え福祉教育の充実が図れるよう、教育委員会と打合せを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教職員向けの研修会の開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	2回	1回		
進捗状況及び自己評価	・教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携を目的に、障害のある方の講演や教職員からの事例発表、大学講師による講演等を盛り込んだ「四市福祉教育研修会」を開催することで、福祉教育への理解を深めることができた。 ・他市に比べ朝霞市の教職員の出席が少なかった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	教育現場での福祉教育の実践にあたっては、指導する教職員の理解が不可欠であり、より多くの研修参加者を募る必要がある。
今後の取り組み方針	四市福祉教育研修会においては、福祉教育の推進に携わる小・中・高等学校の教職員の参加者が増えるよう、教育委員会との連携を深めるとともに、周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修会で得た知識・経験を子どもたちに伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	②他機関と連携した福祉教育の実施				
	事業の概要	毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・小中学校での福祉教育の実践では、各小中学校へ福祉教育メニュー等を送付した他、教育委員会と連携し、校長会・教頭会に出席し、周知啓発を行った。 ・小中学校での福祉教育の実践では、社協職員だけではなく、障害のある方や福祉教育サポーター（ボランティア）の協力を得て、実施した。 ・出前講座として、地域福祉活動団体主催のイベントで福祉体験（視覚障害と指先の不自由さの体験）を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施	目標値	50回	50回	55回	55回	60回
	実績値	64回	96回	100回		
進捗状況 及び 自己評価	通年で学校から依頼があり、障害のある方や福祉教育サポーターの協力を得て実施することで、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育を深めることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・小学校での福祉教育の実施が中心であり、中学校や高校、地域住民等からの依頼が少ない。 ・福祉教育の実践に協力してくれる福祉教育サポーター（ボランティア）を増やす必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉教育（出前講座での実践等含む）について、紙媒体やSNS等で情報を発信し、周知を図る。 ・福祉教育サポーター（ボランティア）を増やすために、社協主催の講座等で周知啓発を行う。

3 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

福祉教育の体験学習等に参加して、支え合い・助け合いの気持ちを育む。

4 推進委員会の意見（評価）

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①住民参加による見守り事業の推進				
	事業の概要	住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係が必要です。そのために、地域住民が主体となって見守り活動ができるよう、ボランティアや事業協力者、講座参加者に働きかけを行い、子どもたちの登下校時等における地域の見守りの目の強化について啓発していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業新規協会員向け講習会・協会員フォローアップ研修会にて、互助の助け合いや地域の見守りの重要性、日頃から気づいてほしい点を紹介した。(8) ・あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会において、地域の見守り活動について周知啓発を行った。(1) ・生活福祉資金貸付事業で関わった民生委員に見守り活動の周知啓発を行った(4) ・総合福祉センターの1階談話コーナー等で、地域住民の見守り活動の推進に係る資料の掲示を行った。(1) ・地域包括支援センター主催の徘徊高齢者声掛け訓練に協力し、参加者に声掛けについてのアドバイスや重要性について情報共有することができた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
見守り活動の啓発	目標値	10回	10回	15回	15回	20回
	実績値	4回	10回	15回		
進捗状況 及び 自己評価	あいはあと事業新規協会員向け講習会・協会員フォローアップ研修会、あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会等にて、社協事業の協力者を中心に、見守り活動についての周知啓発を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協事業の利用者への見守りの強化について周知啓発できたが、地域の見守りの目の強化にまでは至っていない。
今後の取り組み方針	社協とつながりのあるボランティアや協力員を中心に、見守り活動の周知啓発を行い、地域住民による地域の見守りの目を増やしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①分かりやすい福祉情報の提供				
	事業の概要	広報紙「社協あさか」、ホームページ等を用いて多くの福祉情報を提供していますが、今後は、誰もが必要な時に、必要な情報を得ることができるよう、従来の広報手段に加え、YouTube、ホームページ及びSNS等を活用し、分かりやすい地域の福祉情報の提供に努めます。また、各種イベント等の顔の見える環境において、社協のサービスや福祉情報の周知を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞社協全体で、ホームページ、X(旧ツイッター)(1,709回)、フェイスブック(1,578回)、YouTube(150回)を使用した情報発信を行った。 ・社協内で、SNSの発信回数の目標を定め、各部署にて情報発信を行った。 ・広報紙「社協あさか」(4月号、7月号、10月号、1月号)、ボランティアニュース(7月号、2月号、3月号)、手話ニュース(春・夏・秋・冬)を発行した。また、広報あさかに記事掲載を依頼した。(18)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の情報提供	目標値	SNS 200回 紙媒体 20回	SNS 210回 紙媒体 20回	SNS 230回 紙媒体 23回	SNS 240回 紙媒体 23回	SNS 250回 紙媒体 25回
	実績値	SNS 140回 紙媒体 18回	SNS 242回 紙媒体 21回	SNS 286回 紙媒体 18回	SNS 紙媒体	SNS 紙媒体
進捗状況及び自己評価	・社協ホームページ・X(旧ツイッター)・フェイスブック・ユーチューブや広報紙等、SNS、紙媒体の両方を活用することで、多くの福祉情報を提供することができた。 ・SNSについて、毎月の発信回数の目標を決めたことで、意識的に情報発信を行い、回数の増加につながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・情報媒体ごとの利点を理解し、わかりやすい単語や写真を使う等、より効果的な情報提供を行う必要がある。 ・地域住民と顔の見える環境での福祉情報の提供をより図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、多様な情報媒体を使って、福祉の情報提供を行う。 ・社協主催の講座や地域の活動団体等の活動場所や主催イベント等で、広報紙等を配布し、広く情報を提供する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

「社協あさか」を読み、福祉サービスの情報を得る。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②メディア戦略の強化				
	事業の概要	複雑化・多様化する情報社会に対応するため、広報紙「社協あさか」等の既存の媒体に加え、SNSや新しいツールを弾力的に活用して、正確で鮮度の良い社協の情報や地域の情報の提供を目指し、メディア戦略の強化を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動ステーションのメールマガジンに、ボランティアセンターの情報を掲載してもらった。 ・外部の子育てサイトに、児童館の情報を掲載してもらった。 ・コミュニティFMラジオ(775ライブラリーFM)に、社協の講座の情報を提供し、宣伝してもらった。 ・募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙等の設置先の拡大	目標値	2件	2件	2件	2件	2件
	実績値	5件	0件	1件		
進捗状況 及び 自己評価	・広報紙の設置先の拡大には至らなかったが、行政(市民活動ステーション)・企業・外部の子育てサイトと連携し、SNS等にて情報提供してもらうことで、より広く福祉の情報を提供することができた。 ・募金説明会に出席できない自治会・町内会に向けて、募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開し、情報の提供に努めたが、多くの視聴には至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協が持っている情報手段だけではなく、関係機関と連携し、幅広く情報提供できる体制づくりが必要である。
今後の取り組み方針	引き続き、関係機関等に、広報紙の設置先の拡大や情報提供の協力について、連携を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉サービスの情報を得るための「社協あさか」の設置場所を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①福祉活動団体に対する活動支援				
	事業の概要	身近な地域での見守り・支え合いの基盤となる自治会・町内会や福祉活動団体等に対して継続的な活動ができるよう助成等の支援を行います。また、団体と連携・情報共有し、地域福祉に参画する住民の増加や地域の活性化を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・福祉活動団体相談連絡件数(電話・訪問含む):延べ214件 ・社協支部活動費助成金及び広報折込料助成金を交付し、自治会・町内会への活動支援を行った。(社協支部活動費及び広報折込料:68件) ・赤い羽根共同募金等を財源とした地域福祉活動助成金(サロン・会食団体を除く)を交付し、地域福祉活動団体への活動支援を行った。(運営費:19件、事業費:7件) ・地域歳末たすけあい募金を財源とした歳末援護金(サロン・会食団体を除く)を交付し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している地域福祉活動団体へ活動支援を行った。(11件) ・社協の地区活動において、住民主体の活動(「どんぐりの会」「わくわくフェスタin朝霞」「朝霞の森秋まつり」)への活動支援やブースの出展協力等を行った。(13件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会・福祉活動団体等への相談・支援	目標値	210件	210件	210件	220件	220件
	実績値	259件	317件	332件		
進捗状況及び自己評価	自治会・町内会、福祉活動団体に助成金を交付したり、相談支援を行った。あわせて、社協が設定した6つの福祉圏域に担当職員を地区割し、各地区ごとに、住民主体の活動の支援を行ったことで、地域の福祉活動の活性化を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの自治会・町内会や地域福祉団体等と顔の見える関係づくりを行う必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉活動団体等に対して、助成金交付及び情報提供を継続的に行う。 ・福祉活動団体等の活動の場に訪問し、顔の見える関係づくりができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②手話講習会の実施				
	事業の概要	市からの受託事業の取組として、登録手話通訳者を育成するため、段階的に手話講習会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	手話講習会(昼間:中級・養成、夜間:養成)を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
登録手話通訳者数	目標値	10人	10人	11人	12人	13人
	実績値	11人	10人	9人		
進捗状況 及び 自己評価	熟練度にはばらつきはあるが、講習会受講に対する受講生の意識は高く、将来的な手話通訳者の増加に向けて、人材育成を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	毎年度、通訳者養成講習会を開催できないため、講習会受講生からの受講申し込みを見込めない年度が発生する。
今後の取り組み方針	通訳者養成講習会の受講に向けて、受講生の知識・技術の向上とともに、モチベーションが維持できるよう、人材育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

担い手になりそうな人に声をかけて、人材を育成していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③老人クラブに対する活動支援				
	事業の概要	高齢者が地域で楽しく豊かに充実した生活を送るための地域コミュニティの一つである老人クラブについて、市民の認知度を上げるとともにスポーツ及び芸能文化活動等の支援を行います。また、長年の知恵と経験のある会員の技能を活用した支え合い活動がより効果的に展開されるよう支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・老人クラブ連合会の年間事業の検討や予算編成などの会議に参加し、協議を行った。(29) ・老人クラブの定例会に、社協職員が出向き介護予防体操(365歩のマーチ)や防犯講習会を行う等の支援を行った。(58)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	43件	43件	53件	53件	64件
	実績値	33件	44件	87件		
進捗状況及び自己評価	・老人クラブ連合会への支援を行うことで、コロナ禍以前のような老人クラブ主催の年間行事の実施につながった。 ・定例会を実施しているクラブについては、社協職員が介護予防体操を行ったり、社協について説明する機会を設ける等、高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるよう支援することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年間事業の参加者を増やすためにどのような企画・運営をしたらよいかを老人クラブ連合会と協議する必要がある。
今後の取り組み方針	・年間事業の実施について、老人クラブ連合会と協議し、クラブ会員への周知に努める。 ・高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるように、介護予防体操を実施する等の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の老人クラブ活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④ボランティア講座の開催(再掲)				
	事業の概要	地域のボランティアニーズを把握し、ボランティアニュースや社協ホームページ・ツイッター等のSNSを用いて広く発信します。また、地域福祉の担い手となる人材育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、講座後も継続的に参加者の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業新規協力会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいはあと事業新規協力会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえるよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤地域活動団体間の交流事業				
	事業の概要	朝霞市ボランティアセンターでは、地域福祉を支える団体の活性化を図るため、個々の団体への支援だけでなく、市が設置する市民活動支援ステーションと共催で、地域活動団体の交流事業を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動支援ステーション主催の地域デビュー支援セミナーにおいて、協働によりボランティアセンターのブースを設けた。(1) ・地域福祉活動団体間の交流事業としてサロン交流会を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域活動団体交流事業	目標値	1回	1回	2回	2回	2回
	実績値	6回	1回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	・市民活動支援ステーションと協議を行い、市民活動支援ステーション主催のイベントに参加したり、ボランティア保険受付出張窓口の場所を借用する等、連携を深めることができた。 ・市民活動支援ステーションとの共催ではないが、地域福祉活動団体の交流事業としてサロン交流会を実施することで、地域福祉を支える団体の活性化を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民活動支援ステーションとの連携はとれているが、共催で交流事業を実施するまでには至っていない。
今後の取り組み方針	市民活動支援ステーションとの連携を強化しつつ、地域福祉活動団体の交流会の実施等、団体の活性化を図ることに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動の活性化のために、ボランティアに参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①地域の人が集える拠点(場)づくり				
	事業の概要	住民主体の地域活動を活性化していくには、地域の情報共有や取組について、地域住民が気軽に集まって話し合える拠点(場)が必要とされています。そのために、拠点(場)となる場所について、空き家や営業店舗の一部分等の情報収集を行い、地域住民が気軽に利用しやすい場作りについて活用可能か検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活支援コーディネーター会議にて、地域住民が集える場所等の情報共有を行った。(1) ・ふれあいさいきサロンの活動場所のコーディネートを行った。(1) ・市内高齢者施設を見学し、施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
拠点の調査・開拓	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	4件	2件	3件		
進捗状況 及び 自己評価	・生活支援コーディネーター会議での情報共有によって、より多くの地域資源の情報を得ることができた。 ・市内高齢者施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行うことで、協力関係を築くきっかけとなった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	拠点として活用できる場の情報収集が必要である。
今後の取り組み方針	関係機関と情報共有を行いながら、拠点として活用できる場の情報収集および開拓に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の人が集える場について情報提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②施設の点検・修繕				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、日頃から施設内外の点検を継続的かつ定期的に行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・利用者が安心・安全に施設利用できるよう、社協が管理運営する全施設において、建物及び設備の定期的な点検・保守を実施した。 ・必要に応じて施設及び設備の修繕を行った。 ・事故、破損につながらないように、備品等の設置場所の環境整備を必要に応じて実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
点検施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況及び自己評価	・施設及び設備の定期的な点検(業者による法定点検や職員による施設及び公用車等の点検等)を実施し、安全な施設運営に努めた。 ・修繕が必要となった箇所については、行政と協議しながら、利用者の安全を優先順位として修繕等を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・施設・設備の老朽化により、修繕箇所が増え、それに伴い費用も増加する施設が出ている。 ・指定管理事業の範囲では実施できない高額な修繕も発生しているため、市担当課との情報共有・連携が必要である。
今後の取り組み方針	・点検・保守・修繕を実施して、利用者が安心・安全に利用できる施設運営に努める。 ・職員の施設等の安全管理に関する意識の向上に努める。 ・施設内設備の老朽化が懸念される施設においては、稼働状況に注意しながら管理を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設のルールを守り、有効に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①災害ボランティア講座の実施				
	事業の概要	災害は全て想定内で起こるとは限りません。想定外のことも踏まえ普段から地域のつながりや防災意識を高めるため、これまでも災害ボランティア講座を開催してきました。今後さらに地域住民同士が支え合う意識の醸成を図るため、地域住民や社協職員を対象とした講座を開催します。また、災害ボランティアとして活動できる人材を増やしています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・被災地における災害ボランティアセンターの運営支援について、被災地に派遣された職員を講師として、社協担当課にて、報告会を行った。(1) ・埼玉県社協主催の災害対応力強化研修(マネジメント編)に職員が出席した。 ・社協職員で能登半島地震災害義援金の街頭募金を行った。 ・朝霞市総合防災訓練において防災の工作教室を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティア講座	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	・災害ボランティアセンターに関する報告会を社協内で開催したり、埼玉県社協等が主催した研修に出席することで、職員の災害ボランティアに関する知識が深まった。 ・社協職員による街頭募金の実施や朝霞市総合防災訓練に参加することにより、地域住民・行政とのつながりを深め、地域の防災意識を高めるきっかけづくりができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防災や災害ボランティアについて、地域住民に、より理解を深めてもらうことができるような仕掛けづくりが必要である。
今後の取り組み方針	地域住民を対象に、災害時の対応について、意識の醸成を図ることができるような講座を企画する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティア講座で得た知識を家族や周りの地域住民に伝える。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②災害ボランティアセンター設置訓練の実施				
	事業の概要	災害ボランティアセンターは、社協職員だけでは運営が難しいとされています。そのため、災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していくためには、継続的な訓練が必要です。社協職員に限らず、行政や地域住民にも参加を呼びかけ、横のつながりを確認しながら訓練に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害ボランティアセンター設置時に使用する資機材の充実及び点検を行った。(1) ・朝霞市と災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定を締結した。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。 ・埼玉県社協の依頼に基づき、被災地の災害ボランティアセンター運営支援として職員を派遣した。 ・埼玉県社協等が主催する災害ボランティアセンター関連研修に社協職員が出席した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティアセンター設置訓練	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況及び自己評価	・資機材の充実及び点検を行ったり、行政と協定を締結したり、職員の安否確認訓練を行うことで、災害ボランティアセンターの設置について体制整備を図ることができた。 ・被災地への職員派遣や埼玉県社協等が主催した研修会に参加することで職員の知識と経験が深まった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市(福祉相談課・危機管理室等)との情報共有・連携を深めていくことが必要である。 ・社協内の災害ボランティアセンターの運営体制について、検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・災害ボランティアセンターの運営体制等について検討し、設置・運営マニュアルの見直しを図る。 ・職員の意識の向上を図るため、引き続き災害ボランティアセンターに関する研修等の情報を、全部署に配信し参加を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティアについて関心を持ち、社協が開催する講座等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③防災訓練の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において、火災や自然災害を想定した防災訓練を実施し、平時から災害に備えるとともに、施設利用者や地域住民に対して防災意識の啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・施設利用者と職員等含めて、火災・地震・水害等を想定した避難訓練を実施した。また消防設備機器等の操作訓練(消火や通報等)を行った。 ・地震発生時の初動行動の訓練(シェイクアウト訓練)を行ったり、水害時の避難場所が離れている施設においては徒歩での避難訓練を行ったり、複合施設では合同の避難訓練を実施したり、施設の防災訓練に自治会・町内会の参加があったり、土日勤務者向けの消防設備説明会を開催する等、それぞれの施設で防災訓練を行った。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災訓練の実施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況 及び 自己評価	・法令に定める訓練(避難・消防等)を実施し、安心して地域住民に施設を利用してもらえるよう体制整備を行うことができた。 ・施設ごとに、その立地、利用特性に応じた訓練を行い、職員・利用者等に防災意識の啓発ができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	職員、利用者、地域住民を巻き込んだ防災訓練を継続して実施していく必要がある。
今後の取り組み方針	法令に定める消防訓練・避難訓練を行い、平時から災害に備えるとともに、利用者だけでなく地域住民にも声かけして参加してもらえる訓練を企画する等、防災意識の向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災への開催を持ち、施設等が行う防災訓練に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	④小地域福祉活動における防災事業の相談支援				
	事業の概要	自治会・町内会やボランティア団体が行う防災関連事業に対し、災害発生時の初期対応や身の回りにあるもので作れる防災グッズ等の情報提供を行ってきました。今後は、災害時の様々な場面で役立つ情報や災害関連の講座案内等、地域住民の支え合いによる防災活動について社協から情報発信を行いつつ相談支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自治会・町内会における防災事業について、事前の連絡会議に参加し、当日は災害時に役立つ工作教室を行うブースを設けた。(1) ・朝霞市総合防災訓練(防災フェア同時開催)やふれあいいきいきサロンへの出前講座で、災害時の役立つ紙食器等の工作教室を行った。(2) ・自治会・町内会における防災訓練に参加した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災関連情報の周知・啓発・相談支援	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	3件	4件	3件		
進捗状況及び自己評価	・災害時に役立つ紙食器等の工作教室の開催を通して、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図ることができた。 ・地域の防災訓練に参加することを通して、自治会・町内会の防災事業への支援を行い、顔の見える関係づくりができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	災害関連の講座の開催や地域住民の支え合いによる防災活動への参加について、広く地域住民に周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	・市が主催する防災に関するイベントに参加したり、災害ボランティア講座を企画する等、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図る。 ・社協が主催する講座やボランティア・小学校区等の団体が実施する防災に関するイベント等について、SNSや広報紙等を活用して周知啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災に関心を持ち、地域で実施する防災訓練等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①子どもへの防犯教室の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する児童を対象とした施設において、自分の身を守るために普段からできること等、分かりやすく防犯について学ぶための機会を提供します。また、施設間でも防犯対策について情報を共有し、防犯対策の充実を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する放課後児童クラブにて、防犯教室を開き、児童が防犯を学ぶ機会を提供した。(10) ・放課後児童クラブ主任会議や児童館長会議にて、地域の防犯に関する情報や対策について、情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子どもへの防犯教室	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	9回	10回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	・放課後児童クラブにて、社協職員が紙芝居や寸劇で防犯教室を開催し、児童に伝わりやすい工夫を行うことで、子どもたちに学ぶ機会を提供できた。 ・放課後児童クラブや児童館の職員間で情報共有することで、地域の防犯に対する意識の向上につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	様々な事案に応じた防犯教室を開催する必要がある。
今後の取り組み方針	子どもたちが、自分で自分の身を守るような知識が増えるよう、防犯教室を継続して開催していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域での見守りや防犯活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	地域福祉推進係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②住民の防犯への意識の啓発				
	事業の概要	地域住民に対して、朝霞警察署と社協の見守りネットワークの協定により提供される「地域防犯支援情報」を活用した情報提供を行います。また、社協が開催する講座や研修会、集い等の場でも地域の中で取り組んでいる防犯活動の事例を紹介・周知し、防犯意識を高める啓発を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞警察署より提供される地域防犯支援情報について職員間で情報共有を行った。(1) ・社協が運営する老人福祉センターにて、埼玉県警察が作成した「特殊詐欺」に関する注意喚起やクーリングオフに関する情報等のポスター掲示したり、チラシを配布し、利用者へ情報提供した。また、スマホ相談にて、迷惑メールの対応方法を利用者に伝えた。(3) ・老人クラブ連合会理事会にて、消費者生活支援センターからのクーリングオフについてのチラシを配布した。(1) ・社協が運営する放課後児童クラブにて、朝霞市からの不審者情報等を周知し、児童及び保護者に情報提供を行った。(10) ・朝霞警察署との見守りネットワークの協定に基づき、放課後児童クラブから防犯に関する相談を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯関連情報の周知・啓発	目標値	20件	20件	20件	25件	25件
	実績値	13件	17件	16件		
進捗状況 及び 自己評価	・社協が運営する施設にて、防犯に関する注意喚起、啓発活動を行い、施設利用者の防犯に対する意識付けを行うことができた。 ・職員間で情報を共有することで防犯意識の醸成を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を周知するために、防犯の知識・情報を有している関係機関との連携を図る。
今後の取り組み方針	・チラシや印刷物など紙媒体を用いた情報提供を継続して行う。 ・地域や施設で行われる講座等で防犯に関する情報提供を行う。 ・ご近所同士が顔見知りになることが、その地域の防犯につながることを地域住民に周知啓発する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分たちの安全は自分たちで守るという意識を持ち、日頃から防犯に関する情報への関心を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①障害のある人や高齢者の外出支援				
	事業の概要	障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、外出時の手段も大切な役割を担っています。その手段の一つである住民による生活支援サービス「あいはあと事業」により、外出を支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	あいはあと事業で、高齢者等の買い物や通院の同行の支援の依頼はあったが、利用には至らなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
外出支援活動件数 (あいはあと事業)	目標値	30件	30件	35件	35件	35件
	実績値	31件	27件	0件		
進捗状況 及び 自己評価	定期的に利用していた利用会員からの依頼がなくなったため、外出支援の活動実績は0件だった。通院同行の相談はあったが、身体介助が必要であったり、活動先が市外であったため、利用には至らなかったが、居宅介護支援事業所からの相談の連絡はあるため、外出支援のための社会資源の一つとして認知されていると思われる。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外出支援の相談はあるが、身体介助などの理由により、利用には至らないことが多い。
今後の取り組み方針	あいはあと事業にて、外出を支援する活動(利用会員の身体や車いす等にあふれる内容は除く)があることを事例紹介等を通じて周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域の支え合いにより、外出を支援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②車いすの貸出し				
	事業の概要	けがをして車いすが必要になった、病院から退院する際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行います。貸出し時には、操作方法について説明し、車いす利用時の事故を予防していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自立歩行の困難な方の社会参加を促進し、また、介護者の日常介護活動を援助し、在宅福祉の増進を図るため、社協で所有する車いすの貸出しを行った。(51) ・適宜、メンテナンスを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
車いすの貸出し	目標値	55件	55件	60件	60件	60件
	実績値	61件	64件	51件		
進捗状況 及び 自己評価	・広報紙やSNSでの周知の効果もあり、初めての利用の方も多く見られた。 ・ケガや病気等による緊急の貸し出しもあったが、柔軟に対応することができた。 ・ケガや病気等に限らず、高齢の家族がいる旅行等で使いたいというニーズにも対応することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用者の中には、期限内に返却がなかったり、返却の連絡がなかなかとれないケースがあった。
今後の取り組み方針	・ケガ等による緊急の利用希望にも対応しつつ、高齢の家族の一時退院や帰省などの短期的・単発的なニーズにも役立ててもらえるように、周知啓発を行う。 ・貸し出し時に、ルールの確認を丁寧に行い、利用者の理解を得る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

移動サービスの情報を地域の中で共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①生活困窮者等への支援				
	事業の概要	住宅の確保が困難な人に対し、住居に関する必用経費の相談や課題の整理を行い、必要に応じて生活福祉資金貸付等の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・住宅の確保が困難な人に対し、住居確保給付金の案内や食材支援等を行った。慢性的に困窮しており、貸付の対象にならない人には、生活保護への相談を勧めた。 ・低所得に該当しないが、生活費が不足しているという人に対して、生活状況と収支の確認を行い、家計の見直しを提案した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	15件	18件	18件	20件	20件
	実績値	31件	22件	27件		
進捗状況 及び 自己評価	住宅の確保が困難な人に対し、本人の状況をよく確認・傾聴し、本人の生活課題に対応できそうな社会資源の情報を提供する等、住居が確保できるような支援に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	低所得世帯ではないが、金銭の使い方により、住居確保が困難になっている相談者が増えている。
今後の取り組み方針	社会資源の情報収集等、複合的な相談にも対応できるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

住居確保が困難な方がいたら、社協等の相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--